

岡山桃太郎空港機能強化事業の整備について

I これまでの経緯

1 背景

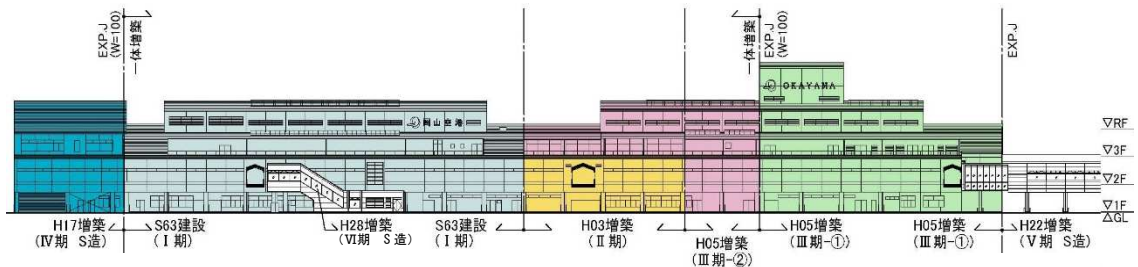
岡山桃太郎空港は、昭和 63 年 3 月、2,000mの滑走路を備える第 3 種空港として開港した。開港から 38 年が経過しており、空港基本施設及びターミナルビルについて、今後、適切な維持管理や設備・施設の更新が必要である。また、グローバル化の進展などから、開港当初と比べ利用者数は約 5 倍に増え、大きく成長している。その一方で、空港間の競争の激化や人口減少の進行への対応などが求められている。

2 これまでの取り組み

岡山桃太郎空港を取り巻く社会情勢は、グローバル化の進展や空港間の競争が激化するなど、大きく変化していることから、様々な課題に対処し、県内企業の企業活動を支え、県民にとって利便性の高い空港であり続けるため、空港づくり基本構想策定（令和 2 年度）や機能強化戦略検討（令和 6 年度）を基に、令和 7 年度に機能強化基本計画を策定したところである。

II 岡山桃太郎空港の状況

1 現況（南立面図）



I 期(S63)	II 期(H3)	III 期(H5)	IV 期(H17)	V 期(H22)	合計(延床面積)
6,314 m ²	1,244 m ²	6,223 m ²	1,843 m ²	311 m ²	15,935 m ²

【増改築の変遷】 ※エスカレーター工事増築分(VI期(H26)39㎡)を除く。

III 岡山桃太郎空港機能強化基本計画

1 整備方針

- ・将来のインバウンド需要に対応できる国際線施設の機能強化
- ・老朽化（38年経過）した施設等の更新、利用者の快適性・利便性の向上

2 施設整備の概要

【整備場所】

- 岡山桃太郎空港（岡山県岡山市北区日応寺 1277）

【施設規模】

- 国際線エリアを東側に 32m、北側に 15m増築
- 施設の老朽化・耐震対策、レイアウト再配置
- 増築面積：約 7,000m²、既設面積：約 16,000m² 合計 23,000m²

【整備内容】

(1) 旅客ターミナルビルの整備計画

ア 旅客ターミナルビルの整備方針

「岡山桃太郎空港 空港づくり基本構想」の空港機能強化戦略でとりまとめた、①国際線施設の強化（同時2便対応）、②現状の課題解決と長寿命化による施設の強化、③旅客の利便性向上のための施設改善、④より快適な旅の始まり、円滑な移動を提供できる施設整備の4つの機能強化策を実現するため、以下の整備を行う。

4つの機能強化策	施設整備内容
①同時2便対応	コンコース（旅客搭乗橋への通路）の増設
	保安検査場、出入国審査場・検査場の拡張
	搭乗待合室、手荷物受取所の拡張
②長寿命化等	エスカレーター、エレベーターの新設
	老朽化対策及び耐震性向上
③利便性の向上	チェックイン・出発・到着ロビーの拡張
	移動の円滑化のための動線の確保
④快適性の向上	保安検査場、搭乗待合室の拡張
	トイレの拡張とユニバーサルデザイン化

※保安検査場については、機器のスマートレーン化も併せて検討する。
また、空港業務従事者の環境改善のため、休憩室等の整備を検討する。

イ 旅客ターミナルビルの整備概要（詳細は別紙参照）

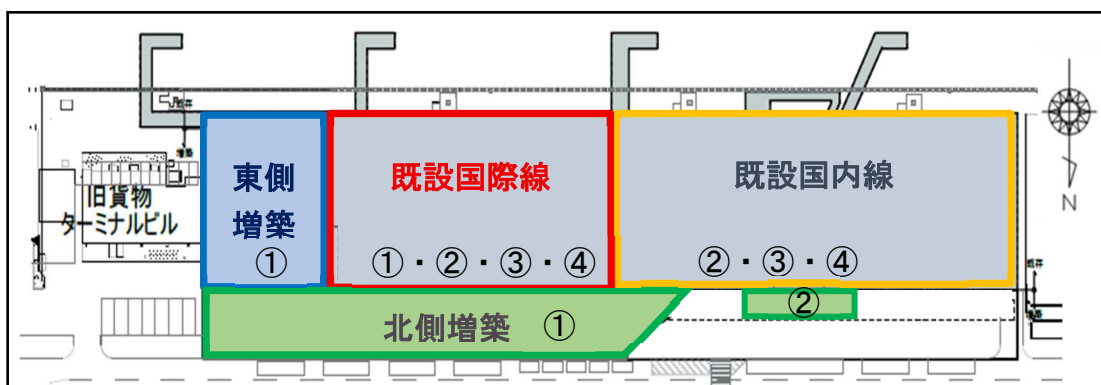


図1 旅客ターミナルビル 改修イメージ図

4つの機能強化策

- ① 国際線施設の強化（同時2便対応）
- ② 現状の課題解決と長寿命化による施設の強化
- ③ 旅客の利便性向上のための施設改善
- ④ より快適な旅の始まり、円滑な移動を提供できる施設整備

ウ 外観・内観意匠計画

岡山桃太郎空港の将来像として定められている「地域を支え、国内そして世界とつながる私たちの国際空港」にふさわしい、新旧施設を一体化したデザインとし、円滑な移動を提供し、利用しやすい施設を目指し、新生旅客ターミナルビルを創出する。



図2 旅客ターミナルビル イメージ図（外観）

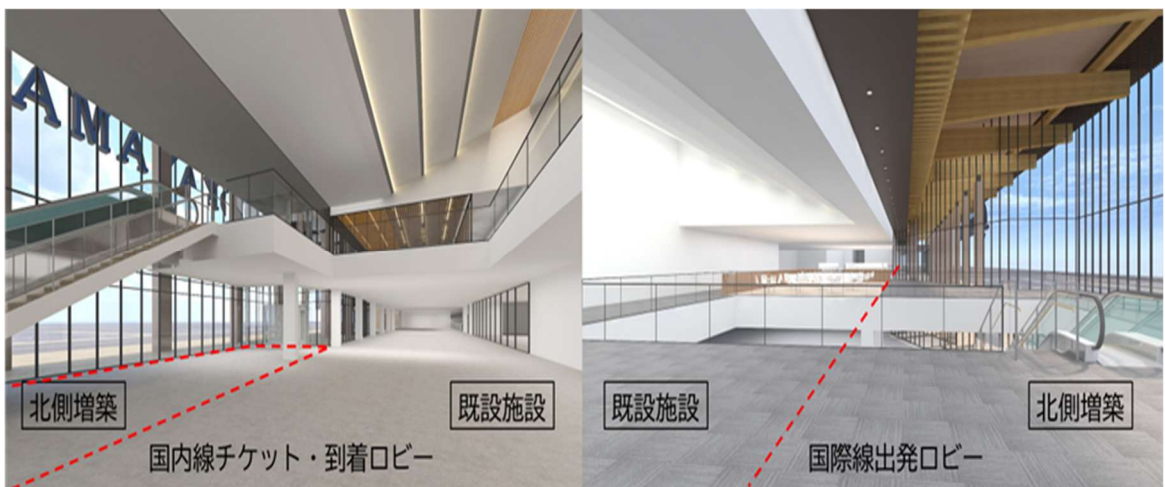


図3 旅客ターミナルビル イメージ図（内観）

(2) 駐車場・構内道路等整備計画

現状の課題と対応

- ・旅客ターミナルビルを北側へ増築するため、駐車場を縮減し再配置を検討
- ・混在している公共交通と一般交通を完全分離し、安全性と利便性向上を検討
- ・構内道路の狭隘化している箇所を解消し安全性を確保

(3) 旅客ターミナルビル等の設計に向けて

本計画において検討した旅客ターミナルビルの改修規模は、国際線同時2便対応と国内線の利便性・快適性の向上を目的とした機能強化を行うための最小限の規模を示したものである。

空港を円滑に運営しながら実施する施設等の改修には課題が多く、事業費高騰の要因にもつながることから、本計画の規模等を基に基本設計・実施設計を進めることになるが、空港の特殊性を踏まえ以下の事項に留意する。

- ・旅客ターミナルビルのセキュリティラインを合理的に区分し、利用者等の安全を確保しながら使いやすい施設整備を進める。
- ・旅客ターミナルビルは、様々な関係者の施設や設備が存在し、財産や管理の区分が複数にまたがっているため、関係者と調整し整備を進める。
- ・概算事業費については、物価上昇や運営しながら実施する改修による、繰り返し生じる仮設工の費用を－5%～＋10%と見込んでいるが、今後の設計においてその精度を高める。

3 整備スケジュール（予定）

令和8年度	基本設計
9年度	実施設計、旧貨物ビル解体、駐車場仮設工事
10～14年度	ターミナルビル増改築工事、駐車場改修工事

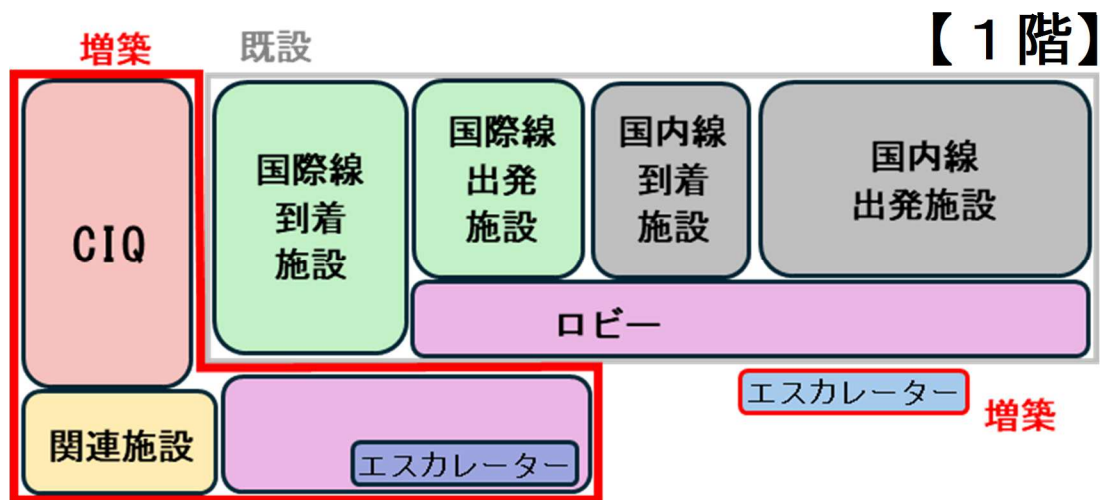
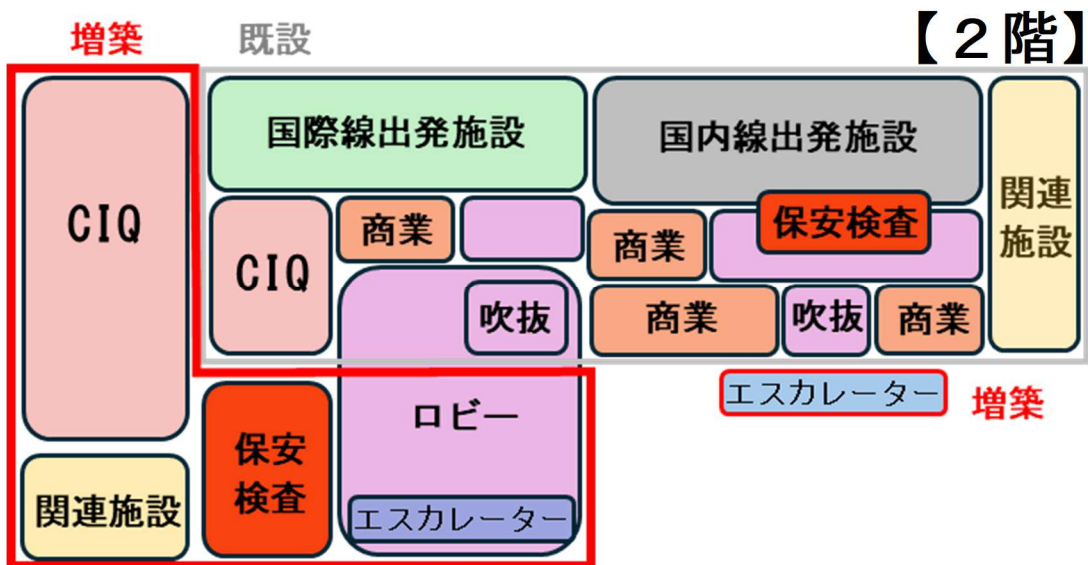
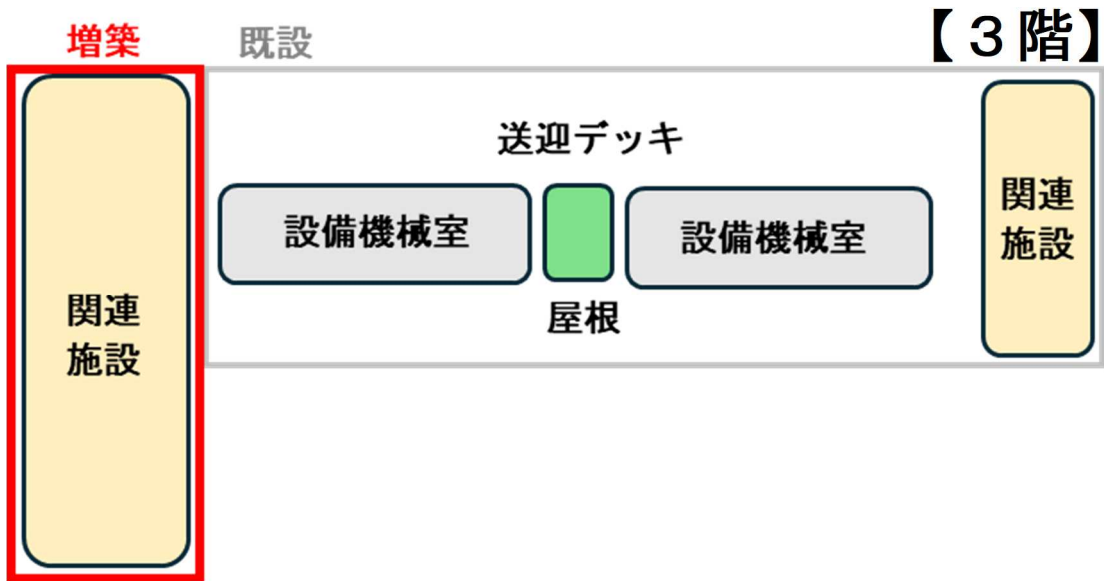
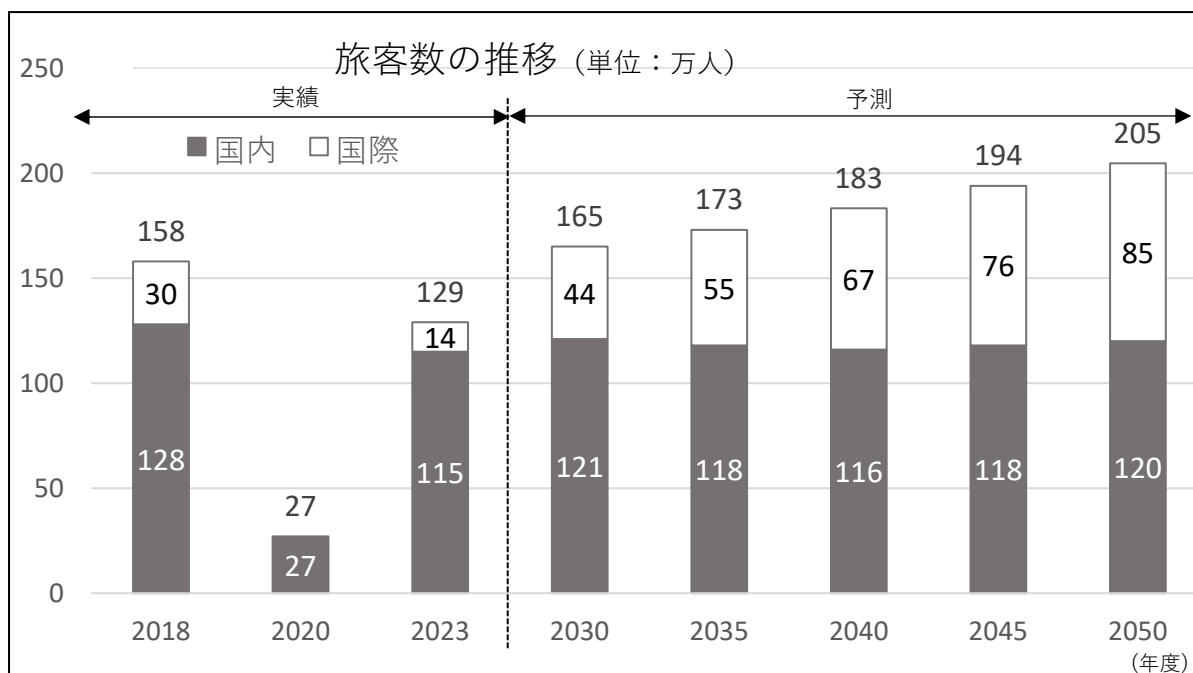


図4 旅客ターミナルビル 改修施設配置図

※ 国際線・国内線エリアに1基ずつエレベーターを新設する。

<将来需要予測>



<狭隘化の状況>



＜老朽化の状況＞



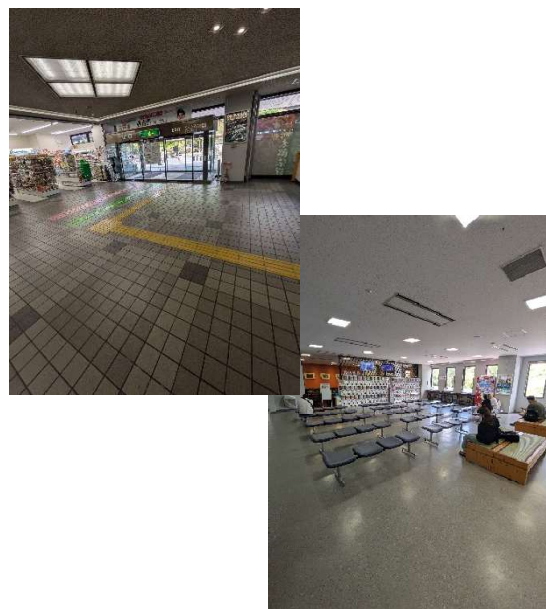
北側軒裏



ビル前歩廊



国際線上部(水漏れ状況)



1F 国内線ロビー、2F 国内線待合所